

入江長八と大分に残る鍔絵

第1回 鍔絵とは？

東京都立大学 プレミアム・カレッジ 本科・専攻科修了
一級建築士 立川 公彦

1. はじめまして

まず私の経歴と今回執筆することに至った経緯を簡単に述べることで自己紹介とさせていただきます。私は、建築技術者としてゼネコンに40年勤務した後に、“生涯学べる100歳大学”として2019年度に開設された東京都立大学プレミアム・カレッジで学び直しの機会を得ました。その中で同大学の山田幸正特任教授（建築史）のご指導のもと、鍔絵や近代建築に携わった左官たちをテーマとして研究に取り組みました。その背景には、40年間建築施工に関わったなかで、左官が極めて繊細な技術を持ち重要な職種であるにも関わらず、だんだんその活躍の場が狭まってきたことに対する危機意識がありました。さらに、大分県出身の私が子供のころから見てきた、古い家の鮮やかな色彩の絵柄（図1参照）が、実は左官が腕を揮った鍔絵であったと近年知ったことにあります。今回から何回かの連載のなかで、拙い調査研究で見たことや感じたことをお伝えし、名工と呼ばれた左官たちが残した鍔絵のすばらしさをお伝えできればと思っています。



↑ 図1 大分県安心院町に残る鍔絵 明治18年

2. 鍔絵のなりたち

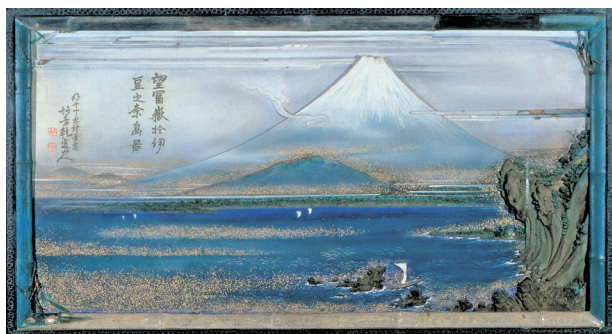
「鍔絵」とは、左官が鍔を使って漆喰をレリーフ状の浮彫にしたものです。漆喰細工ともいわれますが、江戸末期から明治にかけて活躍した左官入江長八が独自の手法で彩色し芸術の域まで高めたものを、明治初期、豊原國周は錦絵で「鍔絵 前代未聞のわざ 左官長八」と称しました。また、昭和13年に発刊された結城素明著『伊豆長八』において、長八の漆喰細工などを「鍔絵」と称しています。このような経緯を踏まえ、長八の漆喰細工に対し初めて「鍔絵」と称していることから、「鍔絵」を創始したのも入江長八ということになります。



↑ 図2 飛天の図（伊豆松崎町 浄感寺）弘化3年

長八の鍔絵は、建築装飾（図2参照）、額装（図3参照）、塑像、その他衝立などの工芸品に分類できます。さらに建築装飾は、風雨や日光の影響を受ける外装と、その影響が少ない内壁や建具・天井ランプ掛けなどの内装では技法が異なるので、分けて考えなければなりません。また、額装は多くが額縁部分にも漆喰装飾を施し、塗額とも言われており、保存しやすいことから多くの作品が残されています。これらの作品が、明治10年に開催された第1回内国

勸業博覧会に出品され高い評価を受けたことから、広く世間に認められることになったのです。



↑ 図3 富嶽（伊豆の長八美術館）明治10年

長八が創始した鍔絵は、明治以降全国各地に伝えられていきましたが、各地に残るものを「鍔絵」と称したのは近年のことで、写真家の藤田洋三氏が自ら取材し、「鍔絵」として雑誌や書籍で紹介したのがはじまりではないかと考えます。

鍔絵は左官の隆盛とともにありました。江戸の街は幾度となく大火に遭い、防火性能を高めるために土蔵造りや漆喰外壁が推奨されました。さらに、明治政府は西洋建築による街づくりを推進し、煉瓦造による大規模建築が増えていきました。西洋からの新しい技術を柔軟に受け入れた左官への需要は高まり、東京や横浜を中心に隆盛期を迎えました。修業を目的とした「西行」や、地方からの出稼ぎも増え、都会で技術を得た左官たちは、それぞれの故郷に帰り、施主に対するお礼や寺社への奉納額として、鍔絵を残していったのです。

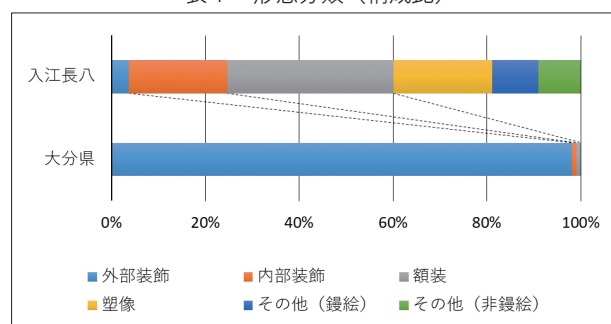
鍔絵が残されている地域は、長八が活躍した東京や伊豆地方の他、全国の広範囲に及びます。制作年代や作品の特徴などから、左官の名工を輩出したいくつかの地域に重なります。気仙左官の岩手県南部、小杉左官の富山県射水市、石州左官の島根県大田市、九州地方では日出町や宇佐市安心院町を中心とする大分県中部などがあげられます。特に大分県は制作年代も比較的古く、多くの作品が残されています。関東から遠く離れた大分県に、どのように鍔絵が伝えられたのかは、次回以降に述べていきたいと思ひます。

3. 長八と大分の鍔絵を比べると

長八の作品は外部装飾が少なく、内部装飾、額装、塑像が多く見られます。火災や震災により建物と運

命を共にしたこともあります。外部装飾の過酷な環境条件では、制作技法の制約を受け繊細で自由な表現ができないことが理由と考えられます。さらに作品は多種多様に及び、作品数も他に比べて圧倒的に多いのです。弟子たちが壁下地までを施工し、長八は鍔絵の制作に専念したことによると考えられます。さらに、左官の第一線を退き高齢になってからも精力的に制作を続け、晩年も多くの作品を残しました。一方、大分県の鍔絵は圧倒的に外部装飾が多く、特に安心院地域周辺は戸袋に多くの作品が制作されています。（表1参照）

表1 形態分類（構成比）



長八作品の画題は多岐に及びます。「祈願・縁起」の画題では龍、鶴や虎、塑像では大黒天や恵比寿などがあります。「花鳥」では牡丹、菊や蘭、雀、燕など多種に及びます。また「山水・風景」では中国古来の山水の他、特に富士山の画題が多く見られます。「故事・舞踊演目」では天野鉦女命、静御前や常盤御前、春暁などがあります。「信仰」は主に塑像で、聖徳太子や不動明王、地藏尊などを残しています。「肖像」では左官師匠の関仁助など長八の関わりのあった人たちの塗額や塑像を残しています。一方、大分県の鍔絵は、鶴や恵比寿など「祈願・縁起」の画題が大部分を占めます。「その他」は、家紋と装飾文様などです。（表2参照）

表2 画題分類（構成比）

